

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	16	学校名	静岡県立中央特別支援学校	校長名	伊賀 匡
------	----	-----	--------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全・安心な学校づくり	子どもの人権を守る取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員に求められる倫理観を備え、高い人権意識や人権感覚をもって児童生徒及び保護者と関わることができた職員 100% ・担当している児童生徒の人権教育の具体的な機会を把握することができた職員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚チェックシートの記入を通して、自分の人権意識について振り返ったり、課題を見つつけたりすることができた職員 99.2% ・人権教育の年間計画の確認や生徒指導課の人権に関する働き掛けを通して、人権教育に関してどのように取り組んでいくのかを把握することができた職員 90.9% 	A	人権感覚チェックシートの使用が有効であり、意識して関わることに繋がった。
	災害時・非常時における防災、防犯体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・各種訓練や取組において、担当する児童生徒の安心安全や危機管理を考えたり、自分自身の防災防犯に関する知識を高めたりするなど、主体的に取り組むことができた職員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災発生や不審者侵入を想定した研修や訓練に参加し、児童生徒の安全確保や安否確認、避難方法について、学年やグループの職員と意見を交わし、より安全な行動を考えることができたとする職員 97.2% 	A	防災訓練が充実しており、自分事として捉え、対応できる職員が増えた。
	命を守る緊急時・災害時の対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時や災害時を想定した訓練を通して対応方法を理解し、「緊急時や災害時に自分がどう動いたらいいのか」を定期的に見直すことができた職員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当や身近な児童生徒の緊急時や災害時（医ケア生のみ）の対応方法を理解し、「緊急時や災害時に自分がどう動いたらいいのか」を定期的に見直すことができた職員 97.2% 	B	対応訓練では即時改善後、再実施として学びを積み重ね、対応できるようになった。
	安全・安心な給食の提供と摂食指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食の将来の願う姿を考え、発達段階を意識して摂食指導ができた職員 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食課の研修（摂食の基本、摂食講習会）、学年での研修を通して摂食に関わる将来の願う姿を考え、担当する児童生徒の発達段階に適した支援で摂食指導ができたとする職員 98.2% 	A	献立の放送等食育を意識した取り組みが充実した。
	感染症対策を踏まえた上で活動できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に感染症対策を確認して指導をすることができた職員 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策チェックリストを活用し、感染症対策を講じて児童生徒の指導にあたることができたとする職員 99.3% 	A	チェックリストの活用、呼びかけ等定着し、意識行動できた。

様式第3号

	児童生徒の視点に立った生活しやすい環境づくり	・児童生徒が生活しやすい環境を考え、改善することができた職員90%以上	・児童生徒の実態や特性に合った教室環境や見やすい掲示について、意見を伝えたり、グループで考え、改善したりすることができたとする職員94.4%	A	環境整備について掲示板での周知が有効であった。
生きる力を育む授業実践	将来の豊かな生活を見すえた個別の指導計画の作成	・児童生徒の将来の生活像から導かれた個別の指導計画の目標を設定することができた職員100%	・児童生徒の現在できることを大切にしつつ、将来に向けて付けたい力を考えたり、個別の教育支援計画を活用したりして、個別の指導計画の目標を設定することができたとする職員98.4%	A	目標評価確認日の設定により、将来の豊かな生活について話し合いが深まった。
	「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確にした授業づくり、生活指導	・取組目標にある3つの姿を明確にして授業づくりをした職員90%以上	・取組目標にある3つの姿のうち、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」を明確にして授業づくりができたとする職員92.6%	A	学部研修等話し合いを通して、単元観について丁寧に考える機会が増え、授業づくりが進化してきた。
	進路指導の視点を生かした日々の指導や支援の充実	・進路指導の視点を個別の指導計画の作成や見直しに生かすことができた職員90%以上	・進路指導の視点を個別の指導計画の作成や見直しに生かすことができたとする職員87.8%	A	情報共有、校内発信にも力を入れていきたい。
	生涯スポーツにつながる教育活動の充実	・生涯にわたってスポーツに親しむ姿をめざして「する・見る・支える・知る」の視点で教育活動ができた職員90%以上	・児童生徒の生涯にわたってスポーツに親しむ姿をめざして「する・見る・支える・知る」の視点を活用しながら教育活動ができたとする職員62.7%	B	視点を活用した授業や指導について考えていく。
	児童生徒の実態に応じてICTを活用できる授業の検討	・指導においてICT機器の活用を検討又は実施できた職員70%以上	・児童生徒の課題を解決する手段として、ICT機器を候補として考えることができたとする職員97.0%	A	新しい機器を使ってみたいと申し出る教員が増えた。
	実態を的確にとらえた目標設定と、生活年齢や発達段階に応じた指導の充実	・「どんな姿を目指して」取り組んでいるのか説明できる職員90%以上	・担当している児童生徒の自立活動の指導について、「どんな姿を目指して」取り組んでいるのか説明することができたとする職員94.6%	A	ケース会等検討を重ねる中で、実態の理解や、専門的な視点を学ぶことができた。
	教職員一人一人が取り組む業務改善	・子どもと向き合う時間を活用して専門性や効果的なT-Tの向上について学び、それを生かして指導を実践することができた職員90%以上	・研修一覧表を活用して分掌課主催の研修や講習会に参加したり、T-Tについて学んだりしたことで、自身の専門性が向上したり、指導に生かしたり	A	現状と各課の要望を照らして調整対応できたが、更に工夫

様式第3号

			<p>することができたとする職員 93.0%</p>		<p>が必要である。</p>
<p>地域や社会や社会に開かれた学校</p>	<p>地域や社会とつながり合う授業実践</p>	<p>・児童生徒と地域（麻機地区を含む静岡市及び児童生徒の居住地区）間で、双方向性のある授業（間接的な交流を含む）を実践できた職員90%以上</p>	<p>・学校と地域間で、地域とのつながりを実感しながら実践することができたとする職員91.5%</p>	A	<p>学校と地域とが連携・協働して授業づくりをするよさが浸透してきた。</p>
	<p>地域と連携した読書活動や表現活動</p>	<p>・読書活動や図工・美術の作品展などを通して、児童生徒が外部の人たちと関わるための取組ができた職員80%以上</p>	<p>・本の読み聞かせや鑑賞教室、各種コンクール等を通して児童生徒が外部の人たちと関わることをできたとする職員93.5%</p>	A	<p>作品展への出品等、外部から評価いただく機会が増えた。</p>